

北日本新聞八月二日付

「大空襲七十年平和祈る」の記事を読んで

富山市立呉羽中学校 二年 岩林 亜弥

毎年八月一日に行われる花火大会。夜空に次々と打上げられる大輪の希望の花。私はそんな花火を、今年も、家族といっしょに見ました。私はこの花火を見ると、いつも思い出すことがあります。それは、ひいおばあやんが私に教えてくれた戦争の話です。

ひいおばあやんは、こわい戦争でね。わしは五人の子供を連れて、地下に逃げたんだよ。毎日のように警報が鳴って、空からは次々と爆弾が落ちてきて、ね。周りには火で焼け、何もかもがなくなり、道には亡くなられた方がたくさんいたんだよ。食べ物もないし、着る物もない。わしのたんなさんもこの戦争に行って亡くなっ。てしもうた。

私はこの話を聞いて、あまりのおそろしさ

にぞっとししました。今まで、学校やテレビで
何度か戦争の話を聞いたことはありましたが、
これだけこわいものたとは思ってもしなかつた
たからです。いつも笑顔でやさしいあのひい
おばあちゃんがこの戦争を体験したんだと思
うと、考えるだけで胸が痛くなります。私は
この話を聞いて、戦争の本当のこわさを知り、
それと同時に、もう二度と戦争をしてはいけ
ないという、平和への強い気持ち湧いてき
ました。私たろは、戦争の体験者から実際に

話を聞くことが出来る最後の世代だと思いま
す。今の平和をこれから未来につなげてい
くためには、次の世代に戦争について知って
もらうことが大切です。そのために、この花
火はあるのだと思います。私にとっこの花
火大会は、戦争について考えるいい機会にな
っているし、それに毎日家族や友達と楽しく
過ごせることの幸せを教えてくれています。
あの時、毎日のように戦闘機が飛んでいた
あの空は、今では青空が広がり、夏の夜には

花火が打ち上がるきれいな空になりました。
これは平和の証だと思えます。私は誰もかも
の幸せをうばい、苦しませるあの戦争を、絶
対に繰り返してほしくありません。この平
和な空をずっと見続けていきたいです。私はこ
れからも平和が続くように、ひいおばあちゃ
んから教えてもらって、戦争のこわさをずっ
と忘れないでおこうと思います。こうやって
毎年家族といっしょに花火を見られることが
どんなに幸せなことか、改めて感じさせられ
ました。終戦から七十年を向かえるこの節目
の年、多くの方が戦争、そして平和について
考えるそんな年になればいいと思います。
そして、来年も再来年も、ずっとなつと、
平和な空に打ち上げられるあの輝く花火を見
続けたいです。